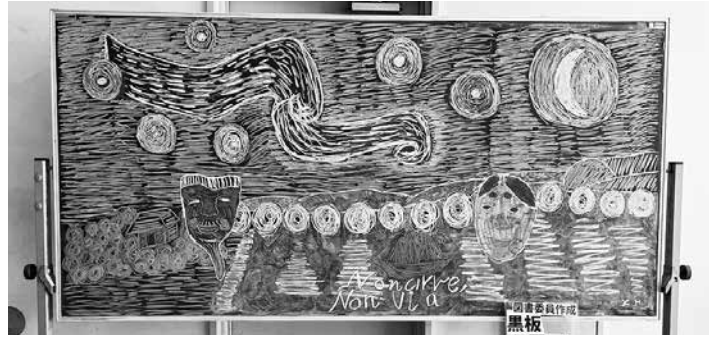


館報 Book Guide

高崎市八千代町二丁目4番1号
群馬県立高崎高等学校
図書館



ブラインドブック



黒板アート



POPでビブリオバトル



謎解きは高高的図書館で

図書館点描



文読む月日

校長 小林智宏

トルストイの『戦争と平和』を『群青』や図書館便りで紹介してきましたが、この三年間、混乱する国際情勢の中で、祖国愛を鼓舞し軍事侵攻を正当化するために本書を利用する言説もあり、残念な思いを禁じ得ません。純粹に文学として味わうとともに、著者の真意を取り違えることなく受け止めたいものです。

さて、表題はトルストイ最晩年の作品名です。庶民に分かりやすい簡素な作風が変わっていった彼が、その集大成として六年間費やして完成し、「自分の著述は忘れられても、この書物だけは人々の記憶に残るに違いない」と語ったそうです。一年の日付ごとに数頁で古今東西の名文が紹介され、戦前は『一日一善』と訳されていました。大作ではありませんが、気儘に頁を開いて読むことができます。

「二月一日」は、「第二義的なもの、不必要なものを多く知るよりも、真に善きもの、必要なものを少し知るほうがよい」と語り始め、選りすぐりの先人の文を紹介していきます。

我々は人生における最大の恩恵を書物に負っている。(エマスン) まず良書を読むことである。でないと、生涯読まないで終わることになるだろう。(ソロー)

十二月三十一日まで、真理、自由、平等、幸福、生死、芸術、学問、労働、社会改革など様々なテーマについて、古代の聖典から近代に至る一七〇人以上の人物の珠玉の文に自作の民話等も交えながら語っています。彼の創作の巨大なバックボーンが窺え、作品理解の参考になるだけでなく、人類が蓄積してきた英知を総覧できる箴言集であり、最高の読書案内にもなっています。

戦争と平和については随所に綴られています。子供が出会うとき、喜んで好意を示し合うが、国家の一員となると、異国人を憎悪する。／諸君自身のほかに平和をもたらしものは何もない。(エマスン)

平和に対する最大の障害は傲慢な心である。／戦争の愚かさを悟るときが必ず来る。共通の敵は貧困と無知と病気であり、そうした不幸と戦うために努力すべきであると。(シヤルル・リシエ)

現在の私たちに語りかけているかのようです。国境も時代も超える普遍的なものがあります。自分の人生はもとより世界の未来のためにも、文読む月日を大切にしたいものです。

『本との出会い』

教頭 小西 弘通



本校は、図書館の活動がたいへん盛んです。図書委員会の皆さんや図書館に係わる方々のご尽力の賜でしょう。定期的にイベントを行い、本や図書館への関心を高める工夫がされており、読書をしたくなる気持ちが大いに高まりました。感謝いたします。

高高図書館では、おすすめの本を定期的に紹介してくれています。本を選ぶ楽しみも読書だと考えると、ゆっくりと図書館や本屋さんで、読んでみたい本を選ぶことも大切だと思いますが、選ぶヒントを与えてくれるのもありがたいです。それも一つのの本との出会い方だと思います。

私は、できるだけジャンルや作家にとらわれず、その時読みたい本を読むようにしています。そういう私にとって、一つのきっかけを与えてくれる「高

高図書館のイベント」はたいへん魅力的です。そして、読みたいと思う本と出会い、多くの学びや感動を得ることができています。本は、知らないことを教えてくれるとともに、自分の考えを深めてくれます。他の人の考えを知ることができません。もちろん、面白いと感じる本に出会うこともあれば、そのようには感じない本と出会うこともあります。どちらにせよ、そこから得るものはたくさんあります。

普段図書館を訪れることがない高生生の皆さんも、ぜひ図書館に足を運んでみてください。そして、本を手にとってみてください。その一冊の本との出会いが、皆さんに何か大切なものを与えてくれるかもしれません。そして、たまには普段読まないような本を読んでみるのも良いと思います。新たな出会いが、皆さんの考えや視野を広げてくれるでしょう。



校内ビブリオバトル

去る九月二十六日(火)の放課後、高崎高校図書館では熱き接戦が繰り広げられていた。総勢六名による書評合戦、ビブリオバトルである。ビブリオバトルとは五分という短い時間で一冊の本を紹介する、誰でも参加できるコミュニケーションの場だ。最終的には、発表参加者(バトラー)と観客が一番読みたくなった本、「チャンプ本」を決定する。

今回のチャンプ本には、一年六組井口真心さんの『空気』を讀んでも従わないー生き苦し

さからラクになるー(岩波ジュニア新書)が選ばれた。彼は熱い口調で、難しいテーマの本の内容をわかりやすく噛み砕いて紹介しており、聴衆を魅了した。他のバトラーも、自分のおすすめの本について熱心に語っており、大いに盛り上がった。質問も数多く飛び交い、本への理解がより深まった。

校内ビブリオバトルは来年も開催される。これを機会に高崎高校の読書家や本に触れる機会が減っている皆様にはぜひ、バトラーや観客として参加してほしい。

(二年 武井・新保)



レコード鑑賞会

今年度も、レコード鑑賞会が開催された。一学期は「イカすジャケッツ特集」。二学期は、十月から十二月まで怒涛の三か月連続で開催され、いずれも図書館にたくさん的高生や先生方が押し寄せた。特に、十一月の藤井風特集は大好評で、多くの「風民」が図書館を訪れた。

学年や立場関係なく、学校中の人が集まり一つの音楽を聴く。どんな楽曲でも簡単に聴ける時代だが、初めて知る音楽を一人で聴くか、大勢で聴くかで曲の印象強さは大きく変わるだろう。また、近年特に人気が再燃しているアナログレコードであるが、それは「大きなジャケッツがSNS映える」「曲の再生が簡単じゃないのが逆にいる」といった理由からだという。確かに、飾られていたジャケッツはどれも格好良かったし、曲を再生する間のトークも盛り上がった。

「わざわざみんなが集まる」「簡単に再生できない音楽を聴く」。

一見面倒くさく、煩わしい行為に思える。しかし、普段あまり聴かないレコードの音楽が、普段は静寂さが必須とされる図書館を包み込む。まさに「非日常」の体現である。この忙しい高校生活で休み時間の数十分だけでも、椅子に深く座り、ゆっくりと音楽を聴いてみてはいかがだろうか。

(二年 地濃・金谷)

レコード鑑賞会 @ 図書館
 presented by DJ.AKIRA [from cock-go-ka to U]
 今年度1発目は...
イカずジャケット特集!!

誰にでもジャケット買った経験はあるでしょう。ジャケットといえは、なんといってもアナログLPです。30cm四方のアルバム・ジャケットはもうそれだけで立派なアート。そしてそして実は...
 ジャケットがイカしているレコードは、中身もイカしている確率が非常に高いのです。

今回のDJで、それを証明してみせましょう!
 by DJ.AKIRA [from cock-go-ka to U with ♡]



6.21 12:15Start!
 音楽マニアだけでなく、アート好きな連中も、図書館に集合せよ!!



県ビブリオバトル ポランティア体験

十一月三日、群馬県立図書館で開催された「全国高等学校ビブリオバトル2023群馬県大会」の大会運営ポランティアに参加しました。大好きな本に関わることができるポランティア活動があると知り、申し込んだのがきっかけです。

私たちは運営ポランティアとして、司会や会場への誘導、投票用紙の回収、消毒作業などを行いました。特に印象に残っている活動は司会です。私は決勝の司会を務めさせていただきました。決勝という緊張感の中で、司会には責任を感じましたが、状況を見ながら進行をすることはとても貴重な経験になりました。

また、運営スタッフとしてバトルの発表を聞くこともできました。バトルのみなさんの本にかける熱量や発表の技術の高さに感動し、ビブリオバトルの面白さを実感するとともに、「もっと本を読みたい」「自分の好きな本についても話したい」と

い。」という気持ちになりました。今回のポランティア活動を通して、大会を運営するために考えることの多さや、ビブリオバトルの面白さを学ぶことができました。この経験に心から感謝したいと思います。

最後に、大会スタッフのみなさん、運営ポランティアのみなさん、その他大会に関わったすべての人に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

(二年 根岸敬太)

文芸関係表彰紹介

第26回全国高校俳句選手権大会
●団体出場

第18回群馬県高校生文学賞

- 【短歌部門】
●優秀賞 二年 植原 拓巳
【俳句部門】
●優秀賞 二年 植原 拓巳

- 優秀賞 二年 香川 直寛
三年 白石想一郎

第38回全国高等学校文芸コンクール

- 【俳句部門】
●出場 二年 植原 拓巳

第27回全国高校生創作コンテスト

- 【俳句部門】
●最優秀賞 二年 植原 拓巳
●入選 二年 富岡 優月

- 第26回神奈川大会全国高校生俳句大賞
●入選 二年 富岡 優月



高崎高校 読書感想文コンクール
令和五年度『群青』最優秀賞(二位)

「つながりあう世界と人生」

二年 常見 健太

『桐島、部活やめるってよ』
朝井リョウ著 (集英社文庫)

「ハワイの山火事で確認された死者は、九十九人となりました。行方不明者はいまだ数百人上っており、州知事によると今後一週間で死者は現在の二倍になる可能性があるとのことです。」被災者の中には、諦めて自ら火の海へ飛び込んだ人もいたらしい。凄惨な事故だ。写真や映像を見ても、起きたことが信じられないくらいに。

起きたことが信じられないのは、それが自分の日常と結びつかないからだ。燃えて灰になった街も、被災した人々の姿も、全部が画面の向こうの話。テレビを消せば何事もなかったかのように自分たちの日常が流れていく。

海に向こうの見たこともない場所、見たこともない人々が、生死の境をさまよっていた時、私は何をしていただろう。学校の課題をしていたかもしれないし、インターネットを見ていたかもしれないし、寝ていたかもしれない。私の日常生活と、多くの人が亡くなる大きな火事とが、同じ空のもとで起きていた。その事実が信じられない。

『桐島、部活やめるってよ』は、五人の高校生の視点から描かれる青春群像劇である。バレー部の主将、桐島が突然部活をやめた。このことは、桐島本人やバレー部には大きな影響を与えたことは間違いない。でも、バレー部以外の人にはどうだろうか。自分と関係ない部活から、一人の部員がいなくなったところで、何も変わらないように思える。作中でも、桐島が部活をやめたこと自体を知らない人物はたくさん登場する。でもそれは、知らぬ間に彼女らの生活さ

えも、少しずつ変えている。私たちの世代は、よく「戦争を知らない世代」といわれる。いや、私たちは戦争を知っている。だって、歴史の授業では戦争について絶対に扱うし、テストのために頑張って暗記もする。「りんごは英語でアップル」ということを知っているように、私たちは「戦争」を知っている。

しかし、それは実際には知っているということではない。そう思われているから「戦争を知らない世代」と呼ばれるのだろう。我々は知識としてそれを知っている、身をもって経験することはできない。だから戦争を知らないといわれるのだ。

でも、私たちは戦争そのものを体験できなくても、その残したものに触れることができる。それはそのために残された、たとえば原爆ドームとか資料とか、だけではない。空気、涙、意志、そういったものが私たちに、戦争とは何かを時間をこえて教えてくれる。実体験の意味での「知る」はできなくても、少なくとも戦争の悲惨さ、残酷さを、肌で知っている。

きっとそれは、ハワイの火事についても言えることだ。自分

がそれを体験できなくても、テレビを消せば別世界のように思えることだとしても、きっとそれは私の人生に影響を与えている。「風が吹けば桶屋が儲かる」ように、桐島が部活をやめたら知らない誰かの日常が形を変えられるように。脳では知らなくても、たぶん肌で知っている。自覚はないけれど。

そういう意味で、たぶん私はこの世のすべてを知っている。今日この日までに起こったすべての事柄が、きっと私の人生のあり方を決めている。そして私は今、どこの誰かも知らない人の人生を作っている。

だから私は考えなければならぬ。自分の生き方を。私の生き方は、誰かを喜ばせたり、悲しませたり、生かしたり、殺したりできるかもしれない。その「誰か」とは、自分の生活とは関係のない見ず知らずの人かもしれない。あるいは何年も後の人かもしれない。

バレー部の主将がやめたことで、ある女子高校生の恋の成就が遠のいた。ある男子高校生が幼馴染と復縁する意志と機会を得た。ある女子高校生が親と向き合う決意をした。ある男子高校生が「ひかり」に照らされた。

そんなふうに、変わるかもしれない。今世界に生きる八〇億の人々が、名前も顔も知らないような人々が、お互いに関わり合っているのかもしれない。だってそうだ。今私の目の前にあるウーロン茶のペットボトル。私はそれを作った人を知らない。原料を作った人を知らない。ボトル自体を作った人を、ラベルを作った人を、ロゴを考えた人を、知らない。脳では知らないけれど、肌では知っている。舌で知っている。目で知っている。そして今、そのペットボトルが、少なくともこの瞬間のそのペットボトルが、少なくともこの瞬間の私の人生をかたどっている。

「桐島、部活やめるってよ」そんなこと、桐島を知らない人には関係ない。「ハワイで山火事が起きたってよ」「戦争はこんななんだってよ」「そんなこと、今を日本で生きる私たちに関係ない。」

本当にそうだろうか。でも少なくともこのウーロン茶の茶葉を作っている人がそれをやめてしまったら、私の人生は変わるだろう。

高崎高校 読書感想文コンクール
令和五年度『群青』優秀賞(二位)

「円と直線」

一年 吉井 青生

『桜の森の満開の下／白痴』
坂口安吾 著 (岩波文庫)

時間の観念には円環的な時間と直線的な時間との対立があるとはよく言われている。円環的な時間とは、世界には「始まり」と「終わり」もなく、ただ同じことが永遠に循環すると考えられる。まさに「始まり」と「終わり」が表裏一体となっているように時間が巡っているとする時間の観念だ。対して直線的な時間とは、世界の有限性に重きを置いた、過去から現在を経て未来へと向かう、一方通行で後戻りのきかない時間の流れのことだ。「始まりと終わりの二点を結ぶ直線を時間が流れる」との考えから来る観念である。

『桜の森の満開の下』坂口安吾著のこの作品は、ある時に住む山賊の、忌み嫌われた満開の桜の森と残酷且つ妖艶な女を巡る怪奇物語だ。

人を殺めることを厭わない残忍な山賊の男は、満開の桜の下に来ると怖気付き、気が変になつてしまう。男は、その桜に對する恐れの原因を探つてやろうと、毎度桜の咲く時期になると考えるが、実行できた試しはなく、のらりくらりと数十年を過ごしてきた。ある日、男は美しい女を攫つてくる。美しい容姿に反し女は我儘で、京都での暮らしを望み、首遊びという残酷な遊びに耽る。山で思いのままに過ごしてきた男にとつて都は退屈で、やがてある桜が満開になる時期までくると女を連れ山へ帰る。女をおぶり、満開の桜の木の下まで来ると、女は突然鬼と化し、男は必死になつて

鬼を絞め殺す。ふと我に返ると、鬼は元の美しい女となつており、女の屍と男の上には桜の花びらが散りかかり、二人の姿は掻き消え、あとには花びらと冷たい虚空が張りつめるばかり。

私はこの作品を「時間」という側面から見つめ、男と現代を生きる我々とを重ねた。はじめ男は、永遠に繰り返されるであろう桜の満開を感じ、男が満開の桜に恐れを感じる訳を気の向いたときに考えられる、安閑な暮らしを謳歌する、言わば円環的な時間を過ごしていた。しかし女の望みで都での暮らしが始まると寺の鐘により一日の「始まり」と「終わり」が知らされる、直線的な時間下での生活を強要される。男はそんな暮らしに我慢ならなかつたのだと思う。文中に、時間を知らせる象徴である鐘をつく坊主を男が疎むこんな描写がある。

「鐘つき堂では一人の坊主がヤケになつて鐘をついています。なんというバカげたことをやるのだろうと彼は思いました。」

また、都で男は、以前までは男の意識下に存在しなかつた時間の概念というものが刷り込まれていったのだと思う。女を連れ山に帰るときも、直線的な時間が男にもたらした、女や男自身「終わり」の意識、つまり寿命を想像してしまつたことで、女は鬼へと変貌を遂げてしまつたのではないか。

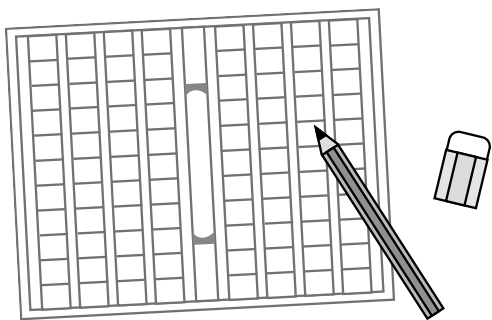
我々現代人もそうだ。「始まり」と「終わり」の二点が暮らしのすべてを形作る、現代社会に顕著に表れている直線的な時間を重視しすぎているように思う。兎に角短い時間、スパンで、性急に問題を解決することで、進歩や目的を意識し過ぎた生活。勿論悪い面しかないわけではない。しかし、スピード感を重要視し過ぎた思考や時間感覚は、弊害をもたらすことがしばしばある。世界規模から地域、個人に至るまでの多くの問題は、直線的な時間感覚に起因するのではないか。

「彼は無限に直線を飛ぶことなどは思いもよらないのです。」

どうやら男は、直線的ではないつか疲弊し、飛ぶことのできなくなつてしまう鳥のような存在であつたようだ。毎年やってくる満開の桜に「終わり」という

概念、直線的な時間感覚が持ち込まれ、循環が永遠ではなくなつてしまう。そういった恐れもまた、男が感じていた満開の桜への恐れの原因を成す一因だつたのかもしれない。

日本人の深淵に古来より刻まれている、繰り返す四季の移ろいを暮らしの基盤に置く円環的な時間感覚。日本人が長い歴史の中で培つてきたこの感覚のポテンシャルは非常に高い。もしも、現代社会でこのような円環的な時間感覚が浸透し、認められる風潮が出来上がれば、満開の桜のもつ得体のしれない恐怖も少しは払拭され、花見を心ゆくままに楽しめるようになるのかもしれない。



渡辺 彰 先生に

(図書課長)

読書インタビュー



渡辺先生のおすすめ本コーナーは図書館で常に人気です。そこで、図書委員長が渡辺先生に読書インタビューを行いました！

Q 他に好きな作家というのと誰になりますか？

A そういう質問に対して用意している作家はまず吉行淳之介。今の高校生は知らないと思うけれど。調べてください。そこそ有名な作家ですよ。卒論も吉行淳之介、実は息子の名前も淳之介っていうんだよね(笑)。あと現在進行形の作家でいえば、やっぱり村上春樹。私もいわゆるハルキストの一人です。

Q ところで先生はどうして国語教師になったのですか？

A この質問もよくされるんだけど、少なくとも高校生の時は教師になるなんて少しも考えていなかったな。大学は文学部なんだけれど、「なんとなく」教師になったんだよね。「なんとなく」っていうと主体性も何もないように聞こえるでしょう。でもそれって見方を変えると、いかにも「自然になった」ということでもあるんじゃないかな。

A いいねえ、そういうことについておいて(笑)。今答えていて自分の中でつながったんだけれど、そもそも私が本を好きになったのも、誰かに読めとか言われたからじゃなくて、いかにも「自然な感じ」なんだよね。ただそこにはある仕掛けがあった。

Q 最後に、渡辺先生にとって、本とはなんでしょう？

A ベタな質問やなあ(笑)。うん、「心の食事」…なんてね。今降りてきたフレーズだけど、あんまり面白くないなあ。

Q 今日貴重なお話、どうもありがとうございました。

A え！終わりのな。こちらこそ、どうもありがとうございました。……

Q 渡辺先生はどのような本をよく読みますか？

A 若いときはいわゆる純文学中心だったけれど、最近は何口が広がったよね。ミステリーも含めて、エンタメ系もけっこう読むようになった。純文学とも大衆文学ともとれるような小説って良いな。桐野夏生とかね。あとは新書。でも新書はどうしても仕事、評論文の授業のネタになるとか、そういう感じになっちゃうんだよね。

A 人からそんなふうに言われて本を読むのもどうなのかな(笑)。基本的には人それぞれでよいと思うけれど。でもそれじゃ身もふたもないから、無理して答えると、たとえば青春期に読む『人間失格』とかね。あと最近よく感じるのには『徒然草』ってすごいよね。現代にもそのまま通用する大事なことは、だいたいあそこに書いてあるような気がする。

A だからさあ、まあキャリアア教育とかも否定する気はないんだけれど、ああいうのって何か(外付け感)あるじゃない。それに対して「自然とそうなった」っていうのはさあ、もっと内発的なものだと思うんだよね。案外その人の本質と結びついていてような気がする。

A 私の母親がさあ、私はまだ物心もつかないうちから伝記の全集やら、日本文学全集やらをそろえていたわけよ。でもそれらを読めとかは一度も言われたことはないんだよね。ただ家に本を置いておいてくれたというだけね。そこにまんまと私が食いついたってこと。同じ環境でも姉はまったく食いつかなかったけれど、彼女はバリバリの理系で薬剤師やっている(笑)。

Q 本を読めとは言われなかったけれど、環境は整っていたということですね？

A そのとおり。気がついたら本を読む子供になっていた。……

大学時代の執筆活動のエピソードや先生の座右の銘など、ここでは紹介しきれないたくさんの面白いお話を伺うことができて、とても楽しいインタビューでした。個人的には、年齢を重ねることで読書の領域が広がるというお話に興味を持ちました。それは、渡辺先生のように本に触れ続けた人に与えられる恩恵なのかもしれないと考えました。渡辺先生、お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。

(聞き手 二年 高橋 怜)

いざ！ 高高図書館へ

高崎高校図書館では、株式会社カーリルの「COVID-19 学校図書館支援プログラム」を活用した本の検索サービスと連携しています。インターネットに接続できる環境であれば、どこからでも本校図書館の本を検索することができます。

図書館の classroom も開設しています。登録して新着情報をチェックしてください！

図書館蔵書検索



<https://private.calil.jp/gk-2003900-c6f9n/>



高高図書館 classroom



<https://classroom.google.com/c/MjkyNDQ2NTQwNjcx>

クラスコード
cfgbcm3

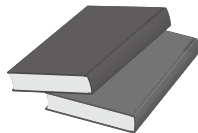


図書館利用の 奥義

開館時間 8:45 ~ 16:50
休館日 学校がお休みの日
(長期休業中の開館日は別途連絡)

施設・設備

■蔵書数 約 40,000 冊



■雑誌『Newton』『日経サイエンス』『AERA』『世界』『ニュータイプ』『大学への数学』『CNN ENGLISH EXPRESS』
(バックナンバーは一夜貸出します)

■新聞

上毛新聞は、当日閲覧できます。
朝日・読売・毎日・日経・産経・東京 (一日遅れ)
AsahiWeekly、朝日中高生新聞

①本を借りよう



BOOK

**10冊まで3週間
借りられます**

面倒な手続きなし。借りたい本を持って
カウンターで学籍番号を伝えるだけで OK !

- ★ 保護者の方も、生徒さんを通して利用できます。
- ★ 卒業生も、連絡をいただければ利用できます。

②リクエスト・予約しよう

読みたい本が図書館にない…

↳ **リクエスト** 

公共図書館から取り寄せも可能。
高崎高校 HP にフォームを掲載。
館内にリクエストカードもあります。




読みたい本が貸出中…

↳ **予約**

返却されたら優先して借りられるようにお取り置き
します。カウンターで申込みを！

③相談しよう

調べるために必要な本を知りたい。
探している本が見つからない… 

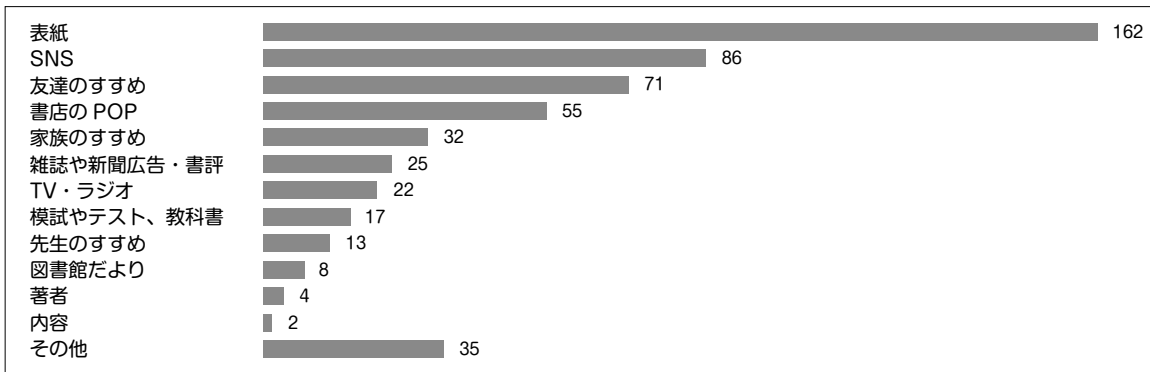
そんな時は司書に Let's 相談 !

高崎高校HPに掲載しているレファレンス申込書を使えば
メールでも OK。

<https://takasaki-hs.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/13/820>



読書アンケート 2023



【その他】

- ・YouTube ・ 出版社
- ・直感 ・ 気分 ・ 題名
- ・知りたい内容があるときに関連書籍を調べる
- ・興味のあるもの
- ・webサイトのレビュー
- ・キャラの魅力 ・ あらすじ
- ・聞いたことのあるもの
- ・趣味に合っているか

図書委員は本校生徒の読書に関する調査を行った。結果はグラフの通り、本を選ぶ基準に関しては多くの人が表紙に重きを置いて選んでいることがわかる。表紙はその本の内容が簡潔に絵や色などで表現されており、そしてその本の第一印象を決めるものだ。その第一印象は不思議、面白そうという印象だけかもしれない。しかし、その印象がその人の本の内容に対する考えや予想を膨らませて、その結果私たちに本への興味を持たせており、それがこのアンケートの結果に関係しているのではないかと私は思う。

(二年 鈴木)

高高カルタ

本校の生徒が思う高高の良いところをカルタにまとめ、そこで高崎高校の魅力を再発見し、それらを多くの人へ拡散するべく、図書委員会を中心に「高高(たかたか)カルタ」の制作が翠巒祭に向けて行われた。

「すさまじい迫力 高高和太鼓部 漢組」「今はなき 前期入試は 独自問題」など、王道を行くものから「そんなもので!?!」と思わせるような多種多様な札が集まり、高崎高校の伝統や誇り、また学校生活の楽しさを伝える渾身の出来のカルタに仕上がった。

(二年 高橋心)



す
すさまじい迫力
高高和太鼓部
漢組

読書のすすめ

私は小学生の時『目で見る〇〇』という本が大好きだった。ふとした機会に、図書室の先生に尋ねられ、夢中になってこの本の面白さを話してみると、関連本を次々に薦めてくれた。その後は、図書室の先生とよく話すようになった。

中学生の時は、剣道に打ち込んだ。剣道に関連する『武士道シックスティーン』や『五輪書』が好きになり、何度も読んでいた。あるとき図書室の先生に話しかけてもらい、私が面白さを熱く語ると、先生も読んでいたようで共感してくれた。このような経験から、自分の「好き」に夢中になって突き詰めていくと、誰かと繋がりを持てたり、共感できたりするのだと思う。高高生は、部活に打ち込んでいたり、あるいは文芸や科学系にハマったりしている人も多いだろう。それらを突き詰めていくと、意外なところで新たな友人ができるかもしれない。女子高生とつながるチャンスでもある。ぜひ極めてほしい。「好き」を深掘りしたい人も

いれば、「好き」をこれから見つけたい人もいるだろう。それを満たしてくれるのは、やはり本だと思う。本に書かれていることから、たくさんを知ることが出来る。一度図書館や書店に足を運んで、本に触れてみてはいかがだろうか。

(三年 長壁)

編集後記

今年度はPOPでビブリオバトルやブラインドブック等、工夫を凝らしたイベントを数多く行った。しかしイベント参加者は決して多いとは言えず、若者の「読書離れ」を身近に感じる年でもあった。社会全体がネットによる利便を図る今、読書という最高に面倒くさくて最高に滑稽な行為が異端にならないことを切に願う。

今回の図書館報を発行するにあたり、関わってくださった皆様から感謝申し上げます、編集後記とする。

(二年 高橋怜)